

ウ裏
ラ
ウ表
エ
ノ
ウ海
ミ
ツ土
チ

吉 増 剛 造 展

2020.4.4 (土) ~ 4.29 (水)

■アクセス■

- ・東武伊勢崎線足利市駅徒歩 12 分・JR 両毛線足利駅徒歩 8 分
- ・北関東自動車道足利 IC より 15 分 (駐車場 3 台あり)
- 11:00~19:00 (最終日は 17:00 まで)
- 月・火曜休廊 ※ 27 日 (月)・28 日 (火) は営業いたします。
- 軽食とソフトドリンクもお楽しみいただけます。



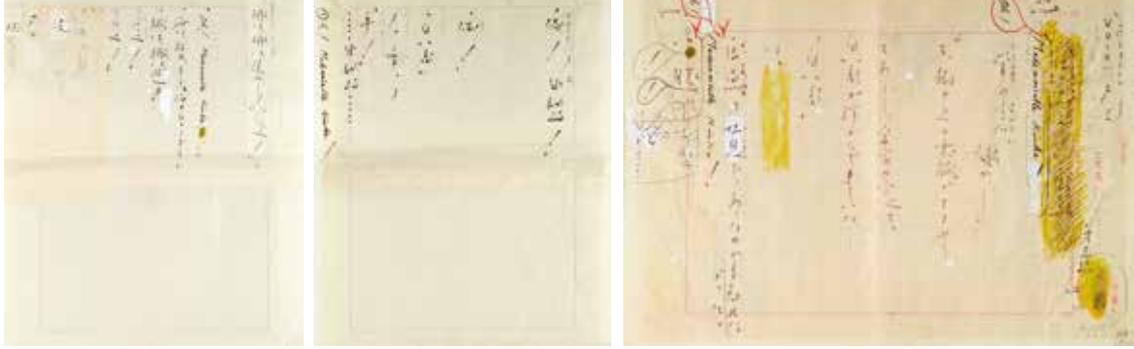
artspace & café

〒326-0814 栃木県足利市通 2 丁目 2658

Tel : 0284-82-9172

E-Mail : info@artspace-and-cafe.com

URL : <http://artspace-and-cafe-ashikaga.com/>



「VOIX / 声 I、II、III」原稿 2019~2020年

2019年8月26日、宮城県石巻のさらに奥、牡鹿半島先端に近い鮎川に、詩人・吉増剛造を訪ねた。Reborn-Art Festival のために公開もされていた、間近に海を臨むホテルの居室は、二ヶ月あまりにおよぶ滞在を経て、日々の創作が行われる最も身近な書斎と化し、色とりどりのマーカーで筆記がなされた窓から入る陽光を受け、机上のさまざまな筆記具や執筆途上の原稿が静かに光っていた。

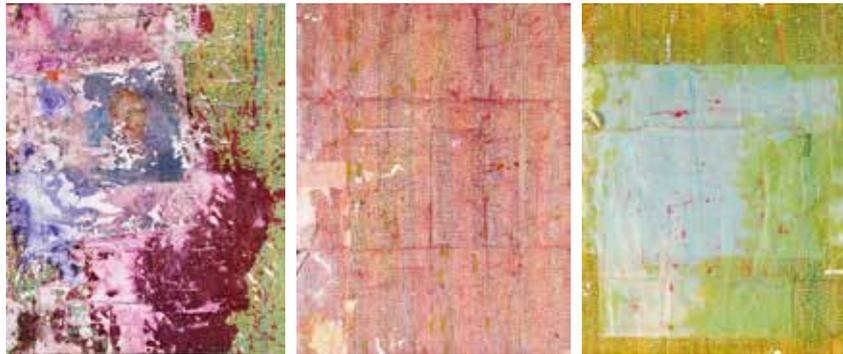
この部屋では、机上の原稿に記されたことばとガラス窓への筆記は、眼の前に広がる海へ呼びかけるようにして重なり合い、足許にある陸と視界の先の海とが一体になっていく感覚が高まっていくのを感じた。

かつてここは大津波にさらされ、陸は海と一つになり、その記憶が場所と人に今なお刻まれている地である。そうした記憶を辿り、鎮める意味を、ここでの吉増の日々は持っていたのではなかろうか。

机には原稿とともに、鯨の歯がいくつか並べられていた。この日の朝に、ホテルの前の浜で解体が行われる中で手にしたものだという。吉増の作品にたびたび現れてきた鯨。陸に上がる間際まで、からだの一部として海中のものであったその欠片は、原稿とともに在ることで、海の祭祀に使われてきた小さな神器にも見えた。

鮎川から足利へ。原稿と筆記により海の記憶がもたらされることで二つの地はつながり、新たな場所と日々がつくり出される。それは私たちの意識の内に、海と陸が、今、穏やかに交じり合う光景を呼び起こしてくれるだろう。

足利市立美術館 学芸員 篠原誠司



「怪物君新稿 I、II、III」原稿 2019年

■お知らせ■

4月11日(土)16:00より、作家による公開制作を予定しています。但し新型コロナウイルスの状況によって、中止になるなどの可能性があります。今後、変更などについての詳しい情報はギャラリーHPにてお知らせいたします。

URL : <http://artspace-and-cafe-ashikaga.com/>



■アクセス■

- ・東武伊勢崎線足利市駅徒歩 12分・JR 両毛線足利駅徒歩 8分
- ・北関東自動車道足利ICより 15分 (駐車場 3台あり)

artspace & café

〒326-0814 栃木県足利市通2丁目 2658

Tel : 0284-82-9172

E-Mail : info@artspace-and-cafe.com

URL : <http://artspace-and-cafe-ashikaga.com/>



吉増剛造 Gozo Yoshimasu

1939年東京生まれ。慶應義塾大学国文科卒業。在学中から詩作を始め、1964年の第一詩集『出発』以来、先鋭的な現代詩人として国内外で活躍。同時に詩の朗読パフォーマンスを行い、80年代からは銅板に言葉を刻んだオブジェや写真作品を発表。2016年には個展「声ノマ全身詩人、吉増剛造展」を東京国立近代美術館で開催。2017~18年には、個展「涯テノ詩聲 (ハテノウタゴエ)」(2018年)を足利市立美術館、沖縄県立博物館・美術館、渋谷区立松濤美術館で開催。2018~19年には、福島県内の3館、福島県立博物館、はじまりの美術館、埴谷・島尾記念館文学資料で吉増剛造展を開催。2019年、Reborn-Art Festival (石巻市)に参加。

